



井上 広居 いのうえ ひろやす

生まれた場所：秋田市
生まれた年：1864年
なくなった年：1956年

秋田市の街づくりのきそを作った

井上広居は、今から140年以上前の1864年、秋田市に生まれました。小さなころは体が弱く、すぐかぜをひいたり、おなかがいたくなったりしたそうです。ですから、あまりやんちゃなことはせず、勉強に打ちこみました。小学校に入った広居は、あまりに小学校の勉強がかんたんなため、数日でやめてしまい、私塾（学者が開いていた塾）に通いました。

22歳のとき、東京専門学校（今の早稲田大学）をそつぎょうします。友だちは、東京で役人になることをすすめました。自分の体に自信のなかった広居は、秋田に帰ってきたのでした。すると広居のことを聞きつけた人がいて、秋田新報という新聞社を手伝ってくれないかと言われたのです。広居が23歳のときのことです。広居は、さっそく東京で学んできた政治学をもとに、記事を書き始めました。

25歳のとき、秋田新報は、秋田魁新報として新しくなることになり、広居はその中心としてはたらきました。

28歳のとき、人にすすめられて、秋田市会議員に当選します。体に自信がないので、ことわっていたのですが、どうしてもことわりきれなくなりました。広居は、いつも、自分のことは考えず、世の中から見えて正しい道を進もうとしました。ですから、いつしか広居のそんざいは、秋田県の政治の世界の中で、大きく、重いものになっていきました。

そのご、市会議長となり、39歳のときには県会議員に当選し、県議会議長もつとめました。52歳のとき、広居に秋田市長になってくれないかという願いがよせられました。そのとき広居は、衆議院議員として東京ではたらいていました。その話を聞いた友だちや知り合いは「もうすぐ大臣にでもなれるのに」と言って、広居をひきとめたそうです。しかし、広居は「東京には、自分よりすぐれた人がいる。しかし私は秋田にいて、秋田のためにはたらきたい」と言って秋田市長を引き受けたという話がのこっています。

広居は秋田市長となり、4期17年をつとめました。その間、秋田市がはってんしていくように、そして住んでいる人の生活が便利になるように、たくさんのことをなしました。はんらんの多かった雄物川をなおし、その工事で出た土砂を使って、茨島に工業地区を作りました。今、茨島には多くの工場がたち、たくさんの人がはたらいています。また、商業学校や病院を作りました。住んでいる人のために水道を作り、そのあとは下水道も作り始めました。今の秋田市は、秋田県の県庁所在地としてさかえています。その街づくりのきそを作ったのが広居なのです。

そこで、87歳のとき、秋田市から、秋田市最高功労者としてひょうしょうを受けました。今の秋田市の街づくりのきそを作った広居は、体が弱かったとはいうものの、よく気をつけて、91歳にて亡くなりました。